

必須・面白マトリクスと専門職大学とバイオメカニズム

吉田直樹^{1†}

¹ 岡山医療専門職大学健康科学部

先日、家庭内で家計の節約の相談をするなかで、「好きなものを我慢するなんてイヤだ」という話が出ました。それがきっかけで、「必須・面白マトリクス」という概念を思いつきました（この巻頭言で使うために急遽命名したので、名前は検討の余地がありますが）。

この概念の下敷きは、スティーブン・R・コヴィー著『7つの習慣』で紹介された、有名な「緊急・重要マトリクス」です。これは仕事を緊急度と重要度の2軸で4分割する方法です。一見、高緊急度かつ高重要度の仕事に注力するのが良さそうに見えます。しかし実は、低緊急度ながら高重要度の領域をコツコツこなすことが大事で、さもないとこの領域は低緊急度ゆえにずっと放置されるか、あるいはその仕事が高緊急度に移行してから大急ぎで適当にやっつけるようなパタンからいつまでも抜け出せない、ということです。

必須・面白マトリクスでは、「必須（強制）←→任意（自由）」の軸と「面白い（楽しい、好き、関心）←→つまらない（苦しい、嫌い、無関心）」の軸の2軸で、お金・時間・作業などを4分割します。作業で言えば、賃金のためだけの苦役的な仕事は、必須・つまらない領域。楽しくできる天職的な仕事は、必須・面白領域。惰性だけでやっている悪癖のような行為は、任意・つまらない領域。強制も見返りもなく、面白いから進んでやる趣味のようなものは、任意・面白領域。

こう分類してみると、緊急・重要マトリクスで「緊急ではないが重要な領域」が大事なものと類似して、「必須では無いが面白い領域」（任意・面白領域）の確保こそが大事かと思えます。天職にめぐりあえて必須・面白領域が大きい幸運な人以外は、任意・面白領域こそが人生の楽しみと言えるかもしれません。家計の節約で言えば、ここをなるべく我慢せずに確保できるように、任意・つまらない領域は削り、必須・つまらない領域は効率化するのが良さそうです。

家計の節約に続いて個人的な話で申し訳ありませんが、私は2020年4月に、新設の専門職大学に転職しました。専門職大学は、短期大学の制度創設以来55年ぶりのニュータイプの大学として2019年からスタートしているにも関わら

ず、あまりにも知名度が低いようなので、この場をお借りして少し紹介させてください。専門職大学は、「大学のうち、深く専門の学芸を教授研究し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開させることを目的とするもの」（学校教育法第八十三条の二）で、企業等での長期実習を含む実習・実技の授業が約1/3以上、実務家教員の割合がおおむね4割以上、原則40人以下の少人数教育、といった特徴があります。

科目群は基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目の4種類があります。職業に直結する職業専門科目で大半が埋め尽くされるのかと思っていましたが、実際は、応用力・創造力育成のために関連他分野を学ぶ展開科目も20単位以上開設することになっており、各大学が個性的な科目を用意しています。私もこの枠で開講予定の科目の中で、職業上必須ではないバイオメカニズムに関連する内容を盛り込もうかと計画しています。

職業専門科目は将来の仕事に必須で資格試験にも直結する内容ばかりなので、先のマトリクスで言えば、学生にとっては必須・つまらない領域に入りがちかと思えます。展開科目は制約が少ない分、価値ある任意・面白領域になるかもしれません。インサイダーとしてはそうなるように努めたいと思います。

ところで、私が本学会のことを知ったのは、生体医工学専攻の修士課程に入った直後だったと思います。それ以前は作業療法と電気工学を専攻していて、すぐに役に立つことを主に学んできたわけですが、大学院の授業で恐竜の歩き方のバイオメカニズム的な解析の話の聞いたり、学会誌や『バイオメカニズム』を読んで、何の役に立つのかわからないけれど減法面白い、というタイプの研究に強く惹かれました。

先のマトリクスで言えば、すぐに役立つ研究は必須の領域、そうでないものは任意の領域に入るかもしれません。任意なのにあえてつまらない研究を行うケースは少ないでしょうから、ここには任意・面白領域の研究が集まるのは道理かと思えます。

役に立つ研究が産業・医療などに重要なのは当然ですが、任意・面白領域が人生においても大学においても欠かせず、むしろそこがその人やその大学の特徴になるのと同様に、研究（者）にとってもこの領域は欠かせないものだと思います。本学会はこの領域の研究を大事にしてきたと思いますし、これからもそうであって欲しいと願います。

2021年4月1日受付

[†] 〒700-0913 岡山県岡山市北区大供3-2-18

岡山医療専門職大学健康科学部作業療法学科

吉田直樹

Tel: 086-233-8020 Fax: 086-233-8030

E-mail: yoshida@1994.jukuin.keio.ac.jp